

## 「第8回市民と市長のふれあいトーク」対話概要

団体名 社会福祉法人 嬉泉 保護者会  
実施日時 平成30年2月8日（木）午後2時～3時25分  
実施場所 市役所第一応接室  
出席者 嬉泉 保護者会 11名  
市長・秘書広報課 2名

### 1 出席者の自己紹介および入所者の紹介

保護者会の出席者のうち、保護者10名 入所者(子)の平均年齢：44歳

### 2 意見交換（個人の障害の内容等に係る部分については記載省略）

#### 【自閉症という障害について】

**保護者：**自閉症の人に会ったり関わったりしたことがあると思いますが、その感想を聞かせてください。

**市長：**初めて自閉症の方に会ったときには、自閉症に対する正しい知識を持っていませんでしたが、率直に大変だと感じました。嬉泉に初めて関わったのは、職場の労組の青年部リーダーになり、社会奉仕活動をしていた時です。嬉泉は、崇高な理念の元に設立された施設ですが、地元の理解をより一層深める



必要があることから、法人としてバザーを実施することになり、その品物を集める協力をしました。また、労組としても寄付をしました。

石井先生は、のびろ学園はできたが、利用者が大人になったあとが心配だと、子どもたちの将来を案じていました。袖ヶ浦市は福祉施設が多くあり、地元の理解等も進んでいると思いますが、当時のご苦勞をされたことと思います。

#### 【嬉泉を選んだ経緯等について】

経緯等について、保護者から説明 説明の一部を掲載

- ・数歳の時に異常に気が付き、受け入れ先を探しているときに医師から聞いた。
- ・親の育て方が悪いと言われることもあり、自らを責めたこともある。
- ・地域の中学校に入学したが、いじめの対象となり、登校できなくなったときに

嬉泉のことを知り、入所した。 など

**市長：**そのようなお子さんの受け入れができたのが、のびろ学園ですね。今では、自閉症の人の様子は分かりますし、自分亡き後、子の将来を心配する親の気持ちも良く分かります。24時間ずっと子にかかりきりになることは困難ですし、今後のことも心配です。福祉の制度は色々ありますが、すべて市で期待に応えられるかというところではありません。東京都のように財源が豊かな自治体ではできますが、一般的な市の財政力では不可能です。国や県を含め支えていく必要があります。国で消費税を福祉に充当して財源を確保すれば、かなりのサービスが可能となるはずですが。

#### 【成年後見人について】

**保護者：**法人が後見人になれることになったので、親が中心となり、平成18年に法人を立ち上げ、現在38件の後見人となっています。財産管理も大事なのですが、話ができないなどという障害の特性から、本人の見守りなども重要です。

**市長：**38件というのは、のびろ学園やひかりの学園の方だけですか。



**保護者：**今はそうです。今後は地盤を固め、助言等をしていきたいと思っています。

**市長：**組織の運営はどのようにしていますか。

**保護者：**後見報酬をもとにして運営をしています。お金がなく、後見報酬を払えない人についてどうするのが課題です。

**市長：**民生委員の会議でも、成年後見については議題となっていますが、国で制度を作ることが必要です。

#### 【施設の増改築等について】

**保護者：**ひかりの学園では、建物の老朽化と利用者の高齢化に伴い、つまづきやぶつかりなどが起きています。段差の解消やショートステイのための増室等、増改築を予定しており、そのための費用がかかります。

**市長：**嬉泉として増改築を行う気持ちは理解できますが、市単独で補助等の対応を

することは困難であり、国が基礎的な支えをしていくことが必要だと思っています。